

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：36301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K14161

研究課題名(和文)複数のアイデンティティ発達経路によるひきこもりの特徴と有効な教育法の包括的理解

研究課題名(英文)Comprehensive understanding of the characteristics of and effective education for hikikomori youth based on multiple identity development pathways

研究代表者

日原 尚吾(Hihara, Shogo)

松山大学・経営学部・准教授

研究者番号：20868244

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：アイデンティティが不明確になる拡散と、社会的に否定的な役割を受け入れる否定的アイデンティティの観点から、青年のひきこもりの長期的経過、ひきこもりに陥る機序、有効な予防法を理解するための研究を行った。長期縦断調査によって、青年のアイデンティティの拡散と否定的アイデンティティがひきこもりの長期的な軌跡を予測することを明らかにした。また、ひきこもり症状を示す青年に対する面接調査によって、「良い大学や会社に進むべき」などの「普通の生き方」に沿わずにアイデンティティ発達に問題を生じていることを明らかにした。自分なりのやり方で社会的に認められるアイデンティティを発達させることの重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、ひきこもりは日本だけでなく他国においても問題視されている。本研究は、多様な文化で共通して重要な発達概念であるアイデンティティに着目するものであり、様々な文化圏で問題視されるひきこもりを統一的に理解できる基盤を提供できる。アイデンティティ拡散および否定的アイデンティティという2種類のつまずきに着目し、各経路でのひきこもり症状の特徴を明確化することで、ひきこもりとアイデンティティ発達の関連に包括的な理解を提供する本研究の学術的意義は大きい。また、ひきこもりに対して有効なアイデンティティ発達のあり方を理解することで、今後の教育方法の改善方針の示唆を得る社会的意義もある。

研究成果の概要(英文)：This research project examined (1) long-term trajectories of hikikomori symptoms, (2) mechanisms by which hikikomori symptoms develop, and (3) effective education for hikikomori symptoms from the perspectives of identity diffusion and negative identity. Long-term longitudinal surveys revealed that both identity diffusion and negative identity predict long-term trajectories of hikikomori among Japanese youth. Furthermore, in-depth interviews with youth having severe hikikomori symptoms indicated that youth who cannot follow normal life stories shared in society (e.g., “it is normal to get a job after graduation”) are likely to experience difficulties in identity development. These findings highlight the importance of developing an identity accepted by sociocultural contexts in one’s own way.

研究分野：発達心理学

キーワード：否定的アイデンティティ アイデンティティ拡散 ひきこもり 自己語り 発達心理学

### 1. 研究開始当初の背景

ひきこもりは日本の重要課題であり、青年期に社会との関係性に問題を抱えた若者がひきこもりに陥りやすいことが指摘されている。これまで、社会の中で自分の役割意識を明確にできず、職業等の重要な決定を主導できないアイデンティティ拡散（以下、拡散）がひきこもりにつながるやすいと想定されてきた (Arnett et al., 2014)。

しかし、役割意識を明確化する教育を受けても、ひきこもりが長期化する若者が繰り返し報告されてきた。彼らには「自分はどうせ社会不適合者」のように自ら社会的に否定的な人間であろうとし、それによりひきこもりを長期化する共通点がある。彼らは自分が社会的に望ましくない人間であるという明確な役割意識を持つため従来の拡散では説明できず、彼らに有効な教育法は不明なままである。

自ら否定的であろうとする若者を含めてひきこもりに有効な教育法を提案するためには、彼らの [1] ひきこもり症状が長期的にどのように推移し、[2] どのようにひきこもりに陥るのか、[3] 予防・改善に重要な点は何なのかについて、基礎的な知見を蓄積する必要がある。

### 2. 研究の目的

本研究は、否定的な役割に基づいたアイデンティティである「否定的アイデンティティ」(Erikson, 1968; Hihara et al., 2018) の観点を導入した。本研究の目的は、若者の拡散および否定的アイデンティティの発達経路が、[1] ひきこもり症状の長期的変化、[2] ひきこもりに陥る機序、[3] 予防・改善に有効な点、それぞれとどのように関わっているのかを検討することであった。

### 3. 研究の方法

(1) 高等教育機関（大学、大学院、短期大学、専門学校）に所属する日本の学生 2313 名に対して、6 か月間隔で 3 時点の縦断調査を行った。否定的アイデンティティを測定するための自己に関する自由記述や、ひきこもり特性を測定するための尺度などを使用した。

(2) 4 年生の大学に所属する大学生のうち、卒業後に就職を予定している 3 年時生 756 名に対して、3 か月間隔で 5 時点の縦断調査を行った。拡散の若者が持ちやすいアイデンティティの苦悩やひきこもりの特性を測定するための尺度などを使用した。

(3) ひきこもり特性をもつ若者を含む計 96 名の大学生に対して、オンラインでインタビュー調査を行った。インタビュー調査では、参加者自身が「これが普通だ」「これが一般的だ」と思われるようなライフストーリー（人生の物語）から逸脱した経験について尋ね、追加でいくつかの追質問を行った。

### 4. 研究成果

(1) 否定的アイデンティティとひきこもり特性の双方向の縦断的な関連性を、交差遅延モデル (cross-panel lagged model) によって検討した。その結果、ある時点の否定的アイデンティティは、次の時点のひきこもり特性の高さを予測しなかった。一方で、ある時点の高いひきこもり特性は、次の時点の高い否定的アイデンティティを予測した。つまり、他者や社会から離れ「ひきこもり」としての社会的に望ましくないラベルを取り入れることが、否定的アイデンティティの形成につながることを示唆された。

(2) まず、就職活動時期におけるひきこもり特性の縦断的な軌跡を検討した (図 1)。その結果、この時期には、やや強いひきこもり特性がさらに強まる軌跡の若者が多く、また非常に強いひきこもり特性を維持する軌跡の若者もいることが明らかになった。また、ひきこもり特性の軌跡を、アイデンティティの苦悩が予測するのかどうかを、多項ロジスティック回帰分析 (multinomial logistic regression analysis) によって検討した。その結果、ひきこもり特性に関連する他の変数（抑うつ、人生満足、就職への期待、性別）を統制したうえでも、強いアイデンティティの苦悩は、強いひきこもり特性によって特徴づけられる軌跡への所属を説明した。アイデンティティの苦悩はアイデンティティ拡散の発達経路に密接に関連すると想定されているため、その役割を示した点で重要な成果である。

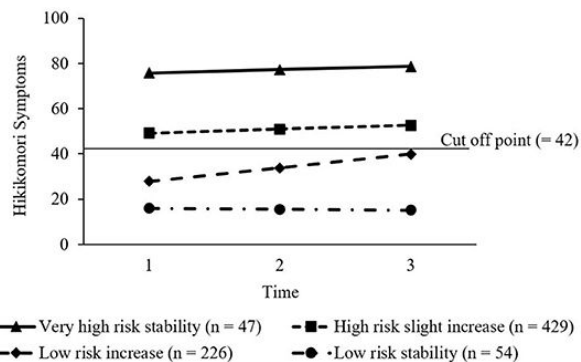


図 1. ひきこもり特性の軌跡

(3) ひきこもり特性がカットオフ値 (Teo et al., 2018) を超えるひきこもり者と、それ以外の若者の間で、インタビューによって得られた自己語りの内容を比較した。ひきこもり者は、それ以外の若者と比較して、社会の中で「これが普通だ」とされているライフストーリーについて詳細に考えていた。また、そうしたライフストーリーとは異なる、自分独自のライフストーリーを構築していた。次に、自己語りの内容を質的に分類するテーマ分析 (thematic analysis) を行った。ひきこもり者は、「周囲と分け隔てなく円満な関係性を築くべき」や「より良い大学や会社に進むべき」といった「普通の生き方」に沿えないためにアイデンティティ発達につまずいていた。そして、そうした逸脱に対して「良い大学や会社に進むのは一つの生き方に過ぎず、自分自身で生き方を決めるのが大事である」のような自分独自のストーリーを洗練させることが、アイデンティティ発達および社会参入の基盤になることが示唆された。こうしたライフストーリーの構築を助ける教育的支援のあり方を模索することが有効である可能性がある。

< 引用文献 >

- Arnett, J. J., Žukauskienė, R., & Sugimura, K. (2014). The new life stage of emerging adulthood at ages 18-29 years: Implications for mental health. *The Lancet Psychiatry*, 1(7), 569-576. [https://doi.org/10.1016/S2215-0366\(14\)00080-7](https://doi.org/10.1016/S2215-0366(14)00080-7)
- Erikson, E. H. (1968). *Identity: Youth and crisis*. Norton.
- Hihara, S., Sugimura, K., & Syed, M. (2018). Forming a negative identity in contemporary society: Shedding light on the most problematic identity resolution. *Identity: An International Journal of Theory and Research*, 18(4), 325-333. <https://doi.org/10.1080/15283488.2018.1524329>
- Teo, A.R., Chen, J.I., Kubo, H., Katsuki, R., Sato-Kasai, M., Shimokawa, N., Hayakawa, K., Umeno-Nakano, W., Aikens, J. E., Kanba, S., & Kato, T. A. (2018). Development and validation of the 25-item Hikikomori Questionnaire (HQ-25). *Psychiatry Clin Neuroscience*, 72(10), 780-788. <https://doi.org/10.1111/pcn.12691>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Hihara Shogo, Truskauskaitė Kuneviciene Inga, Abe Kazuaki, Daniunaite Ieva, Haramaki Yutaka, Kazlauskas Evaldas, Sugimura Kazumi, Zelviene Paulina, Kabir Russell S., Masuda Narumi, Kamite Yuka	4. 巻 -
2. 論文標題 Trauma exposure, posttraumatic stress, and identity content valences among Japanese adolescents	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Adolescence	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jad.12168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 眞鍋 一水、日原 尚吾、内田 利広	4. 巻 -
2. 論文標題 全員面接におけるスクールカウンセラーへの援助要請意図の規定因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hatano Kai, Hihara Shogo, Sugimura Kazumi, Kawamoto Tetsuya	4. 巻 52
2. 論文標題 Patterns of Personality Development and Psychosocial Functioning in Japanese Adolescents: A Four-Wave Longitudinal Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Youth and Adolescence	6. 最初と最後の頁 1074 ~ 1087
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10964-022-01720-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sugimura Kazumi, Hihara Shogo, Hatano Kai, Nakama Reiko, Saiga Satoko, Tsuzuki Manabu	4. 巻 52
2. 論文標題 Profiles of Emotional Separation and Parental Trust from Adolescence to Emerging Adulthood: Age Differences and Associations with Identity and Life Satisfaction	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Youth and Adolescence	6. 最初と最後の頁 475 ~ 489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10964-022-01716-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kambara Kohei, Hihara Shogo, Kornacka Monika	4. 巻 324
2. 論文標題 The bidirectional associations of rumination with values-based action and depression among young adults in the school-to-work transition	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 300 ~ 308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2022.12.126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hatano Kai, Hihara Shogo, Ikeda Megumi, Nakahara Jun, Tanaka Satoshi, Sugimura Kazumi	4. 巻 -
2. 論文標題 Workplace Identity Profiles: Associations with Personality Traits and Work Adaptation of Young Japanese Adults	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Adult Development	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10804-022-09435-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatano Kai, Hihara Shogo, Sugimura Kazumi, Mizokami Shinichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Identity formation with gender differences in University students: a three-wave longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Current Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12144-022-04036-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe Kazuaki, Daniunaite Ieva, Truskauskaitė-Kuneviciene Inga, Sugimura Kazumi, Zelviene Paulina, Hihara Shogo, Kamite Yuka, Kazlauskas Evaldas	4. 巻 12
2. 論文標題 Cross-Cultural Comparison of ICD-11 Adjustment Disorder Prevalence and Its Risk Factors in Japanese and Lithuanian Adolescents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Brain Sciences	6. 最初と最後の頁 1172 ~ 1172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/brainsci12091172	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazlauskas E., Jovarauskaite L., Abe K., Brewin C. R., Cloitre M., Daniunaite I., Haramaki Y., Hihara S., Kairyte A., Kamite Y., Sugimura K., Thoresen S., Zelviene P., Truskauskaitė-Kuneviciene I.	4. 巻 31
2. 論文標題 Trauma exposure and factors associated with ICD-11 PTSD and complex PTSD in adolescence: a cross-cultural study in Japan and Lithuania	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Epidemiology and Psychiatric Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S2045796022000336	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hatano Kai, Hihara Shogo, Sugimura Kazumi, Crocetti Elisabetta	4. 巻 94
2. 論文標題 Direction of associations between personality traits and educational identity processes: Between and within person associations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Adolescence	6. 最初と最後の頁 763 ~ 775
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jad.12062	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hatano Kai, Luyckx Koen, Hihara Shogo, Sugimura Kazumi, I. Becht Andrik	4. 巻 51
2. 論文標題 Daily Identity Processes and Emotions in Young Adulthood: a Five-Day Daily-Diary Method	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Youth and Adolescence	6. 最初と最後の頁 1815 ~ 1828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10964-022-01629-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Iwasa Yasuhiro, Hihara Shogo, Umemura Tomotaka, Tazume Hirotsugu, Sugimura Kazumi	4. 巻 22
2. 論文標題 Identity Formation and School Experience among University Students in A Teacher Training Program: A Four-Wave Longitudinal Study during the Teaching Practicum	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Identity	6. 最初と最後の頁 183 ~ 197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15283488.2021.1954520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hihara Shogo, Kambara Kohei, Umemura Tomotaka, Handa Kyonosuke, Sugimura Kazumi	4. 巻 13
2. 論文標題 Diverse Trajectories of Hikikomori Symptoms During Job Search and the Role of Identity Distress: Three Wave Longitudinal Research	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2022.897806	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hihara Shogo, Sugimura Kazumi, Umemura Tomotaka, Iwasa Yasuhiro, Syed Moin	4. 巻 34
2. 論文標題 Positive and negative valences of identities: Longitudinal associations of identity content valences with adaptive and maladaptive functioning among Japanese young adults	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Development and Psychopathology	6. 最初と最後の頁 1516 ~ 1530
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0954579421000043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hihara Shogo, Umemura Tomotaka, Iwasa Yasuhiro, Saiga Satoko, Sugimura Kazumi	4. 巻 57
2. 論文標題 Identity processes and identity content valences: Examining bidirectionality.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Developmental Psychology	6. 最初と最後の頁 2265 ~ 2280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/dev0001275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatano Kai, Hihara Shogo, Nakama Reiko, Tsuzuki Manabu, Mizokami Shinichi, Sugimura Kazumi	4. 巻 58
2. 論文標題 Trajectories in sense of identity and relationship with life satisfaction during adolescence and young adulthood.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Developmental Psychology	6. 最初と最後の頁 977 ~ 989
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/dev0001326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日原 尚吾、岩佐 康弘、杉村 和美	4. 巻 2
2. 論文標題 就職活動に取り組む青年のひきこもり特性とキャリア選択：生徒・進路指導への示唆	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要．教育学研究	6. 最初と最後の頁 1～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/51598	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hihara Shogo、Ishibashi Iroha、Umemura Tomotaka、Sugimura Kazumi	4. 巻 8
2. 論文標題 Roles of Configurations of Multiple Identity Domains in Adaptive and Maladaptive Functioning in Japanese Emerging Adults: Using a Culturally Relevant Index	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Emerging Adulthood	6. 最初と最後の頁 373～381
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/2167696819858457	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hihara Shogo、Saiga Satoko、Sugimura Kazumi	4. 巻 21
2. 論文標題 Relationships Between Demographic Factors and Trajectories of Identity Distress in Various Life Domains Among Young Adults: A Three-Wave Longitudinal Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Identity	6. 最初と最後の頁 36～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15283488.2020.1839757	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zukauskiene Rita、Kaniusonyte Goda、Nelson Larry J.、Crocetti Elisabetta、Malinauskiene Oksana、Hihara Shogo、Sugimura Kazumi	4. 巻 37
2. 論文標題 Objective and subjective markers of transition to adulthood in emerging adults: Their mediating role in explaining the link between parental trust and life satisfaction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Social and Personal Relationships	6. 最初と最後の頁 3006～3027
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0265407520948621	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する



1. 著者名 Sugimura Kazumi、Hihara Shogo、Hatano Kai	4. 巻 84
2. 論文標題 Emotional Separation, Parental Trust, and Psychosocial Adjustment in Preadolescence and Early Adolescence	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Adolescence	6. 最初と最後の頁 165 ~ 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.adolescence.2020.09.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 日原 尚吾
2. 発表標題 「普通の人生」に沿えない青年の生きづらさ：マスター・ナラティブ・アプローチの発展
3. 学会等名 日本発達心理学会第34回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 雑賀 智子、日原 尚吾、杉村 和美
2. 発表標題 成人期の日本語版親アイデンティティ・コミットメント・マネジメント尺度の作成と信頼性、妥当性の検討
3. 学会等名 日本発達心理学会第34回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 畑野 快、日原 尚吾、杉村 和美
2. 発表標題 全般的なアイデンティティと日常的なアイデンティティ、感情、ライフイベントとの関連
3. 学会等名 日本発達心理学会第34回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazumi Sugimura、Shogo Hihara、Kai Hatano、Elisabetta Crocetti
2. 発表標題 Identity development predicts task engagement and burnout in the transition to tertiary education or work
3. 学会等名 The 18th biennial conference of European Association for Research on Adolescence (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Genki Yasui、Kazumi Sugimura、Shogo Hihara
2. 発表標題 Deviation from master narrative in the process of constructing life stories of Japanese youth: Focusing on Japanese "hikikomori" (serious social withdrawal)
3. 学会等名 The 18th biennial conference of European Association for Research on Adolescence (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yu Urata、Shogo Hihara、Wakaba Nishida、Kazumi Sugimura、Kobo Matsushima
2. 発表標題 A validation of a scale on mujokan (impermanence)
3. 学会等名 Meaning in Life 2022 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inga Truskauskaitė-Kuneviciene、Kazumi Sugimura、Yuka Kamite、Shogo Hihara、Evaldas Kazlauskas
2. 発表標題 Identity processes in relation to trauma exposure, PTSD, and complex PTSD among emerging adults from Lithuania and Japan
3. 学会等名 The 27th annual conference of International Society for Research on Identity (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazumi Sugimura、Shogo Hihara、Kai Hatano、Reiko Nakama、Manabu Tsuzuki
2. 発表標題 Profiles of two aspects of emotional separation and parental trust in adolescents and young adults: Age differences and association with identity and life satisfaction
3. 学会等名 The 27th annual conference of International Society for Research on Identity (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shogo Hihara、Tomotaka Umemura、Yasuhiro Iwasa、Satoko Saiga、Kazumi Sugimura
2. 発表標題 Integrative understanding of identity development in sociocultural contexts: Longitudinal associations of identity processes with identity content valences
3. 学会等名 The 27th annual conference of International Society for Research on Identity (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuka Kamite、Kazuaki Abe、Shogo Hihara、Evaldas Kazalaukas、Inga Truskauskaitė-Kuneviciene
2. 発表標題 Mental health, PTSD, and Complex PTSD during the COVID-19 pandemic among young adults in Japan
3. 学会等名 The 17th biennial conference of European Society for Traumatic Stress Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日原 尚吾、雑賀 智子、杉村 和美
2. 発表標題 現代日本青年におけるアイデンティティの苦悩の軌跡
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神原 広平、日原 尚吾
2. 発表標題 反すつと価値行動，抑うつの時間的關係の検討：就職活動中の大学生に対する1年間の縦断的調査
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日原 尚吾、神原 広平、梅村 比丘、繁田 京之輔、杉村 和美
2. 発表標題 青年におけるひきこもり症状の多様な軌跡とアイデンティティの苦悩の関連：5時点の縦断調査による検討
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日原 尚吾
2. 発表標題 国際交流を通してアカデミック・キャリアを充実させたい
3. 学会等名 日本青年心理学会第29回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞鍋 一水、日原 尚吾、内田 利広
2. 発表標題 生徒の援助要請意図を規定する全員面接の要因：A中学校におけるスクールカウンセラーの実践による検討
3. 学会等名 中国四国心理学会第77回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩佐 康弘、日原 尚吾、杉村 和美
2. 発表標題 教員養成課程の大学生のアイデンティティ発達：教育実習期間を挟んだ4時点データに基づく量的・質的検討
3. 学会等名 中国四国心理学会第77回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞鍋 一水、日原 尚吾、木谷 智子、上手 由香
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症による臨時休校および自宅学習期間中に生徒の心理的支えとなった生徒支援
3. 学会等名 第1回日本公認心理士学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Inga Truskauskaitė-Kuneviciene, Kazumi Sugimura, Kazuaki Abe, Shogo Hihara, Yutaka Haramaki, Lina Jovarauskaite, Yuka Kamite, Paulina Zelviene, Evaldas Kazlauskas
2. 発表標題 Trauma, post-traumatic stress, and identity in Japanese and Lithuanian emerging adults
3. 学会等名 Trauma and Culture: International Conference of Cross-cultural Perspectives on Youth Stress and Resilience (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Paulina Zelviene, Evaldas Kazlauskas, Lina Jovarauskaite, Kazuaki Abe, Chris Brewin, Marylene Cloitre, Ieva Daniunaite, Yutaka Haramaki, Shogo Hihara, Agniete Kairyte, Yuka Kamite, Kazumi Sugimura, Siri Thoresen, Inga Truskauskaitė-Kuneviciene
2. 発表標題 Trauma and post-traumatic stress in Japanese and Lithuanian adolescents
3. 学会等名 Trauma and Culture: International Conference of Cross-cultural Perspectives on Youth Stress and Resilience (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shogo Hihara, Evaldas Kazlauskas, Kazuaki Abe, Ieva Daniunaite, Yutaka Haramaki, Kazumi Sugimura, Inga Truskauskaitė-Kuneviciene, Paulina Zelviene, Yuka Kamite
2. 発表標題 Trauma and identity content valences in Japanese adolescents
3. 学会等名 Trauma and Culture: International Conference of Cross-cultural Perspectives on Youth Stress and Resilience (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shogo Hihara
2. 発表標題 Master narratives and structural issues: Impacts on identity development
3. 学会等名 Virtual panel on master narratives at Tufts (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shogo Hihara, Tomotaka Umemura, & Kazumi Sugimura
2. 発表標題 Longitudinal Associations of Identity Content Valences With Adaptive and Maladaptive Functioning Among Japanese Youth: Including an Index Specific to Japanese Context
3. 学会等名 European Association for Research on Adolescence (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shogo Hihara, Kazumi Sugimura, Tomo Umemura, Satoko Saiga, Yasuhiro Iwasa, & Moin Syed
2. 発表標題 Formation of Negative Identity in Contemporary Society: Applying the Master and Alternative Narrative Approach
3. 学会等名 European Association for Research on Adolescence (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shogo Hihara, Tomo Umemura, Yasuhiro Iwasa, Satoko Saiga, & Kazumi Sugimura
2. 発表標題 Integrative Understanding of Identity Development in Sociocultural Contexts: Longitudinal Associations of Identity Processes With Identity Content Valences
3. 学会等名 International Society for Research on Identity (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazumi Sugimura, Shogo Hihara, Kai Hatano, Reiko Nakama, & Manabu Tsuzuki
2. 発表標題 Profiles of Emotional Separation and Parental Trust in Adolescents and Young Adults: Age Differences and Association With Identity and Life Satisfaction
3. 学会等名 International Society for Research on Identity (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Inga Truskauskaitė-Kuneviciene, Kazumi Sugimura, Yuka Kamite, Shogo Hihara, & Evaldas Kazlauskas
2. 発表標題 Identity Processes in Relation to Trauma Exposure, PTSD, and Complex PTSD Among Emerging Adults From Lithuania and Japan
3. 学会等名 International Society for Research on Identity (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 日本青年心理学会、若松 養亮、大野 久、小塩 真司、佐藤 有耕、平石 賢二、三好 昭子、山田 剛史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 心の中はどうなっているの？	

1. 著者名 藤田 晃之、森田 愛子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 223
3. 書名 新・教職課程演習第8巻 特別活動・生徒指導・キャリア教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------